

国立大学法人 長崎大学 (所在地：長崎県長崎市)

事業名	障害者の生涯学習活動への地域包括的支援		
------------	----------------------------	--	--

研究テーマ	学校から社会への移行期 <input type="radio"/>	生涯の各ライフステージ <input type="radio"/>	主な対象	発達障害・精神障害
--------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-------------	-----------

事業の趣旨・目的

①障害者当事者＝障害を体験として知っている人、すでに様々な対処や工夫をしてきて貴重な情報を持っている人、“**Expert by Experience (経験のある当事者専門家)**”、②**ピアサポーターと専門職が共同創造**：「教える」→「ともに学ぶ」、「支える」→「ともに生きる」、③**様々な気持ちの言語化及び主体的・対話的な学びの推進**

事業実施体制・連携先

連携協議会構成員20名：①**ピアサポートみなと6名(発達・精神障害者当事者)**、②長崎発達支援親の会1名、③長崎県3名(教育庁特別支援教育課、発達障害者支援センター、こども・女性・障害者支援センター)、④長崎労働局1名、⑤長崎障害者職業センター1名、⑥大村市社会福祉協議会1名、⑦**コーディネーター1名(NPOのぞみ共同作業所長、作業療法士)**、⑧技術補佐員2名(長崎大学大学院生、作業療法士)、⑨長崎大学教員4名

学習プログラムの内容

- 1. 移行プログラム【目標：仲間と出会い、自分の特性を知る】**
内容：月1回計5回、日曜日、13:30-16:30、毎回ピアサポーター6名参加
初回(ピアサポーターのリカバリーストーリー)、2回(障害の心理教育)、3回(コミュニケーション)、4回(ストレス対処法)、5回(自分の特性を伝える、講座の振り返り、修了式)
- 2. 生涯プログラム【目標：夢や希望を持って生きる】**
内容：月1回計5回、日曜日、13:30-16:30、毎回ピアサポーター7名参加
初回(ピアサポーターのリカバリーストーリー)、2回(障害の心理教育)、3回(元気を回復するために1)、4回(元気を回復するために2)、5回(ストレス対処、講座の振り返り、修了式)

研究の成果と課題

- 1. 移行プログラム**
受講者数：8名；障害者6名(F2、M4;平均年齢19.2歳)、支援者2名
受講者感想：「自分の意見が言えたり、アドバイスをもらったりして、うれしかった」、「人に相談することがいいんだということがわかってよかった」、「自分の思っている事を素直に言うことができた」
- 2. 生涯プログラム**
受講者数：11名；障害者8名(F2、M6;平均年齢44.3歳)、支援者3名
受講者感想：「悩んでいるのは一人ではないと感ずることができた」、「自分の弱みとかを素直に話せる場であるのがすごくいいと思った」、「この出会いが一番の学びでした」
※その他詳細は下記リンクを参照してください

		
連携協議会の様子	移行プログラムの様子	生涯プログラムの様子

その他研究の詳細など

①事業のホームページ(QRコード→)
<http://www2.am.nagasaki-u.ac.jp/jissen-kenkyu/index.html>
 ②動画配信システム
<https://ngs-recovery.net/>

